令和３年度　学校評価総括評価表

徳島県立阿南支援学校ひわさ分校

学校経営の基本方針	一人一人の特性に応じた教育を行い，その可能性を最大に伸ばし，社会参加や自立につながる児童生徒の育成を図る。
本校の教育目標	１ 自らが生活するための基礎的な力を身につけ，進んで身の回りのことができる児童生徒を育てる。 ２ 健康で安全な生活に努め，一人一人に応じた体力づくりを行い，粘り強く活動できる児童生徒を育てる。 ３ 学ぶことに興味をもち，豊かな感性を養い，自分の思いを表現できる児童生徒を育てる。 ４ 生活経験の拡大を図り，人との関わりを深め，集団生活で協調できる児童生徒を育てる。 ５ 社会生活に必要な知識や技能を習得し，積極的に社会参加・自立できる児童生徒を育てる。
本年度の重点課題	１　安心・安全な学校づくり ・感染症予防，事故防止対策の徹底 ・防災対策の充実 ・緊急連絡体制の強化 ２　多様性を育むキャリア教育の展開 ・自己肯定感を高める教育活動の実践 ・卒業後を見据えた指導内容の精選 ・小中高がつながる学びの推進， ・教員の専門性，指導力の向上 ３　地域とともにある学校づくり ・地域と連携した教育活動の推進 ・地域交流及び地域貢献の展開
学校関係者評価	・地域のセンター的な役割の重要性を担う巡回相談員活動や，ホームページの充実，地域の機関等への作品展開催など，地域を重視した取組は地域の教育力の向上や分校の取組の啓発などにおいて効果が上がったようである。今後も引き続き取組の充実改善を期待したい。 ・総合的な学習の時間（ハッピータイム）の特色ある取組や卒業後を見通したキャリア教育の充実など，学習活動の充実について知ることができた。コロナウィルス感染症の影響もあると思われるが，今後も引き続き取組の充実改善を期待したい。

評価指標と活動計画	評価指標の達成度と活動計画の実施状況
１-①，感染症対策を徹底しながら，通常の学習活動の他に，校外学習，修学旅行，お接待活動などの様々な学習活動を年間計画のもとで計画的に実施する。	１-①，年末年始にかけての感染拡大により実施できなかった計画もあったが感染症対策を徹底しながら，学部別の校外学習，中学部修学旅行，お接待活動などの校外等での様々な学習活動を計画に沿って実施することができた。また，新たにリモート授業などを実施することができた。
１-②，避難訓練や災害マニュアルの見直しや，緊急連絡システムの利活用を積極的に行う。	１-②，避難訓練や災害マニュアルの検討や見直しをすることができた。また，さくら連絡網を 10 回以上活用することができた。
２，専門家のアドバイスを受けながら，愛着障害などの対応が難しい生徒の事例研修やキャリア教育等を通して，教員の専門性や指導力の向上を図る。	２，夏期研修や事例検討会などにおいて，専門家から指導を受けることができた。また，夏季研修会では，オンラインでの公開研修会として，地域の教員や様々な関係機関の方々に対しての研修を実施することができた。さらには，外部講師を招聘してのキャリア教育実践授業等を継続して開催すること等によって，キャリア教育を計画的に実施することができた。
３，近隣の病院等での作品展示や地域貢献活動，お接待活動など地域貢献活動や交流及び共同学習を計画的に実施する。	３，近隣の病院等での作品展示は大変好評を博し，成果を上げることができた。また，地域貢献活動では，新たに地域の小学校等への花のプランター設置を行うことができた。さらには，地域への校外学習や，交流及び共同学習も，感染症の状況に配慮しながら実施し，効果的な体験的活動を実施することができた。

総　合　評　価		次　年　度　へ　の　課　題
B	＜所見＞１，新型コロナウィルス感染症に大きな影響を受け，計画通りには進まないこともあったが，様々な教育活動を行い，成果を上げることができた。一人一台端末によるリモート授業などができたのも大きな成果であった。 ２，外部の専門家等のアドバイスを受けながら，個々の実態把握を効果的に行うことによって教員の専門性や指導力の向上を推進することができた。 ３，地域貢献活動や地域への作品展示，居住地交流及び共同学習について，感染症の状況に配慮しながら実施することができ，ひわさ分校への理解啓発を図ることができたのとともに，効果的な体験的活動をすることができた。	１，次年度も，引き続き安心安全な学校づくりを推進する。特に感染症対策を講じながら，GIGAスクール関連学習等の充実を図るなど，個々の学びを深めるとともに，防災教育等の充実を図り，災害に対して的確に対応できるようにする。 ２，巡回相談員活動や夏季研修会を中心に地域の障がい児教育のセンター的な役割を果たすとともに，ひわさ分校の教員の専門性や指導力の向上を図り，ひわさ分校の教育力の向上に向けた取組を推進する。また，次年度も引き続きポジティブな行動支援等についての研修を深めるとともに，卒業後の職業生活等へ向けて，学部を超えた教育活動の充実を図る。 ３，学校ホームページの充実や地域の中学校との交流及び共同学習，近隣の病院等におけるひわさ分校作品展の充実等を通して，ひわさ分校の教育活動についての理解啓発を積極的に推進し，計画的に児童生徒減少対策に取り組む。

重点課題２　多様性を育むキャリア教育の展開

	自己評価				次年度への課題と今後の方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価		
中学部	社会生活を送る上で重要なスキルとなるコミュニケーション力の向上を図り，様々な場面で適切に対応できる力を身につける。	評価指標 ①個別の指導計画において，コミュニケーションや社会性に関する前期・後期の学期目標を生徒１人につき３個以上設定する。 ②コミュニケーションや社会性に関する後期の学期目標の評価が，「達成」「ほぼ達成」となる割合が75%以上となる。	評価指標による達成度 ①個別の指導計画において，コミュニケーションや社会性に関する前期の学期目標を生徒１人につき４個～８個，後期の学期目標を４～10個設定することができた。 ②前期の学期目標の個々の生徒における達成率の平均値は83%であったが，後期の学期目標については，72%であった。	総合評価 ＜評定＞ A　B　C ＜所見＞ コミュニケーションや社会性に関する学期目標を各生徒に対してたくさん設定することができた。後期目標の達成率は72%であり，評価指標の75%には達することができなかった。目標が多く十分に指導できなかったものや部分的には成長が見られるが評価が「達成」「ほぼ達成」には至らなかったものがあった。しかし，標準化された検査の結果に基づいた目標も設定されており，目標の妥当性は高まっていると思われる。また，ケース会だけでなく部会等でも生徒の状況や指導の方向性，外部の専門家からのアドバイスを共有し，共通理解を図りながら取り組むことができた。	特別支援学校に在籍する生徒はコミュニケーションや社会性に関する課題がどの生徒にも共通してあり，要となる学習課題である。今後も個別の指導計画を中心とした教育活動を進めていく中で，個々の生徒の実態に応じた目標設定を行い，学部全体で情報交換しながら取り組んでいきたい。
		活動計画 ①-1標準化された検査によるアセスメントを行い，客観的な実態把握を行う。（４～６月） ①-2個別の指導計画の年間目標及び学期目標にコミュニケーションや社会性に関する目標を設定する。（５月・９月） ①-3個別の指導計画に関するケース会で目標と手だてを共有する。（５月・９月） ②-1指導の経過について，進捗状況等を見直しケース会等で報告し，指導について検討したり共通理解を図ったりする。（７月・12月） ②-2設定した目標に対する評価を行う。（９月・２～３月）	活動計画の実施状況 ①-1標準化された検査によるアセスメントを行い，客観的な実態把握を行う。（４～５月，７月，９月，12月） ①-2個別の指導計画の年間目標及び学期目標にコミュニケーションや社会性に関する目標を設定する。（５月，９月） ①-3個別の指導計画に関するケース会で目標と手だてを共有する。（５月，９月，１月） ②-1指導の経過について，進捗状況等を見直しケース会等で報告し，指導について検討したり共通理解を図ったりする。（７月，12月） ②-2設定した目標に対する評価を行う。（９月，２～３月）		学校関係者評価 個別の指導計画に関わる取組が継続されており，効果を上げているようなので，保護者関係者等にとって大変ありがたいことである。

重点課題３　地域とともにある学校づくり

	自己評価				次年度への課題と 今後の方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価		
中学部	地域に出向いて活動する機会をできる範囲で設定し，生徒の経験の幅を広げていきながら，学校で学習したことを学校以外の場でも般化できるよう取り組む。	評価指標 ①新型コロナウイルス感染状況を鑑みた上で，感染予防を行い，校外での活動を年間３回以上実施する。 ②相手校と相談しながら実施の方法を工夫して，学校間交流を年間１回以上実施する。 ③希望のあった生徒について，居住地校交流を各生徒につき年間１回以上実施する。	評価指標による達成度 ①沢あそび，釣り活動，お接待事業，修学旅行を実施することができた。 ②本校等の交流を２月に実施予定。 ③対象生徒４名とも１回以上実施した。	総合評価 ＜評定＞ Ⓐ　B　C ＜所見＞ 最も大きな行事である修学旅行については，当初は10月に計画していたが，感染状況等を鑑みて，11月に延期し，行き先も観光客が少ない地域に変更して実施することができた。縮小した形にはなったが，この状況下で修学旅行に行けたことを生徒も喜んでおり貴重な経験ができた。その他の校外学習も他の人と接触の少ない場所や活動を実施することができた。居住地校交流では，新型コロナウイルス感染状況が落ち着いている時期にそれぞれ実施することができ，居住地の友だちとの関わりを楽しむことができた。	学校以外での活動は，学校で学習したことがどれだけ身についているのかを確認したり，生徒がそれを楽しみに日頃の学習活動を頑張ったりと，学校生活にメリハリをつけ，日頃の学習への意欲を高めるために必要不可欠な活動であると考える。また，交流および共同学習では，同じ年代の他校の生徒と関わることでたくさんの刺激を得ることができ，視野も広がると思われる。今後も実施できる内容や方法を 学部で検討し，できる範囲で実施していきたい。
		活動計画 ①感染状況や生徒の体調，季節等を考慮して，校外学習を計画し，実施する。（修学旅行，お接待事業，遠足他）（５月～３月） ②本校との学校間交流の相談をする。（９月以降） ③居住地校（牟岐中学校・日和佐中学校）との交流の打ち合せを行う。（５月） ②③計画に沿って，学校間交流，居住地校交流を実施する。（５月～３月）	活動計画の実施状況 ①沢あそび（５月），釣り活動（10月）お接待事業（10月），修学旅行（11月）を実施した。 ②-１本校の中学部長と学校間交流の相談を行った。（10月，12月，1月） ③-１居住地校との交流の打ち合わせを行った。（５月） ②本校との交流を1月に実施予定であったが，コロナ感染対策のため２月に延期した。 ③-１牟岐中学校との交流を２回（６月，12月），日和佐中学校との交流を３回（５月，６月，10月）実施した。阿南中学校とはリモートで交流を２回（７月，１月）実施した。		学校関係者評価 コロナウィルス感染症対策の関係で計画通りには進まなかったようで残念であるが，修学旅行や校外学習が実施でき，成果も上がったようなのでよかった。

重点課題２　多様性を育むキャリア教育の展開

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="4">自己評価</th><th rowspan="2">次年度への課題と
今後の方策</th></tr>
<tr><th>重点目標</th><th>評価指標と活動計画</th><th colspan="2">評　　価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">高等部</td><td rowspan="2">卒業後の進路先や生活を見据えて，自分の課題に気づき，目標達成に向けて取り組むことができる。</td><td>評価指標

①個別の指導計画の後期目標に，前期就業体験の課題を一人につき２個以上設定し，その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が70%以上となる。</td><td>評価指標による達成度

①前期就業体験で出た課題を，個別の指導計画の後期目標に一人につき，２～７個設定することができた。その評価について，「達成」「ほぼ達成」となる割合は93%であった。</td><td>総合評価

＜評定＞
Ⓐ　B　C

＜所見＞
個別の指導計画の後期目標を作成する際に，前期就業体験での課題を必ず目標に設定するよう，何度も確認を行った。
ケース会をする際に，どの目標が就業体験での課題なのかがわかるように，目標の枠の横に（就）と記入するようにした。そうすることで，担任及教科担当者が，意識して目標設定することができた。</td><td rowspan="2">就業体験での課題をみてみると，普段校内でできていることでも，社会（現場）場面ではできないこと（課題）が多いことがわかった。その個々の課題を克服するために，個別の指導計画の目標に設定し，日々学校生活のなかで取り組んでいる。課題克服のために，教員の意識付けがかなり重要であると感じている。高等部は，保護者や本人のニーズ，発達検査の結果はもちろんのこと，就業体験指導計画とも関連を持ちながら目標設定をしている。教員一人一人が意識できるよう，学部内で今後も継続して周知していかなければならない。</td></tr>
<tr><td>活動計画

①-1TTAPによるアセスメントを実施し，客観的な指標に基づいた実態把握を行う。（5月･6月）

①-2就業体験指導計画を作成し，前期就業体験実施後，それぞれの生徒について出てきた課題を部会等で共有する。（7月）

①-3個別の指導計画の後期目標に，前期の就業体験での課題を一人につき２個以上設定する。（９・10月）
①-4個別の指導計画の後期目標ケース会において，前期就業体験での課題が後期目標に設定されているか確認し，支援方法について共通理解を図る。　（9月）</td><td>活動計画の実施状況

①-1新入生については，２名がTTAP(実態把握検査)を実施し，実態把握を行った。２・３年生については，新担任がTTAPの検査結果を確認し，実態把握をすることができた。

①-2前期就業体験実施後，部会および後期目標ケース会（就業体験ケース会を兼ねる）において，就業体験指導計画で確認しながらそれぞれの生徒の課題について情報共有することができた。

①-3前期就業体験で出た課題を，個別の指導計画の後期目標に一人につき，２～７個設定することができた。

①-4個別の指導計画の後期目標ケース会において，前期就業体験での課題が設定されているか確認できた。また支援方法等についても共通理解を図ることができた。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>学校関係者評価

就業体験が２回実施でき，成果を上げているので，今後もコロナウィルス感染症対策の影響を見計らって，取り組んでいただきたい。</td></tr>
</table>

重点課題３　地域とともにある学校づくり

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="4">自己評価</th><th rowspan="2">次年度への課題と
今後の方策</th></tr>
<tr><th>重点目標</th><th>評価指標と活動計画</th><th colspan="2">評　　価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">高
等
部</td><td rowspan="2">地域貢献活動を通して，社会性を養い，継続して地域とのつながりを持ち，地域への理解啓発につなげる。</td><td>評価指標

①新型コロナウィルス感染症の状況を見ながら，地域貢献活動を年間２回実施する。

②地域の施設（道の駅，公民館）に作業学習で栽培した花のプランターを置く活動を年間２回実施する。</td><td>評価指標による達成度

①６月のみ実施するとができた。12月は新型コロナウィルス感染症拡大により，中止となり教員が活動を行った。

②６月に道の駅，公民館に花のプランターを置く活動を実施することができた。また11月に地域の小中学校に花の苗を配布する活動を実施することができた。</td><td>総合評価

＜評定＞
(A)　B　C

＜所見＞

今年度も，新型コロナウィルス感染症の拡大により，年間２回の活動が予定通りできなかったが，新しい活動として，町の人権擁護委員の方を通じて，地域の小中学校に花の苗を配布する活動の機会を持つことができた。当日，生徒が小中学校に行って配布することで，交流ができたこと，また分校を知ってもらうよい機会となった。</td><td rowspan="2">地域貢献活動は，児童生徒減少の対策の一つとして，分校のことを知ってもらうよい機会になる，また生徒にとっても地域に出て活動することを通して，コミュニケーションの幅を広げ，社会参加につながるため，今後も継続して取り組んでいきたいと思う。
今年度，新たに地域の小中学校に花の苗を配布する活動を行ったが，地域への理解啓発活動も兼ねて，来年度以降も継続して取り組んでいきたいと思う。

学校関係者評価

地域貢献活動が地域に認められ，活動が広がってきたことは大変ありがたいことである。今後も引き続きお願いしたい。</td></tr>
<tr><td>活動計画

①地域貢献活動として，薬王寺において，お接待活動や清掃活動を行う。（６月，10月，12月）

②作業学習において，花の栽培やお接待で配付する記念品の制作を行う。　（通年）</td><td>活動計画の実施状況

①感染症対策を十分に行いながら，６月の花のプランター設置時，10月のお接待活動時に薬王寺の清掃活動を行うことができた。
②週２回の作業学習（園芸，手工芸）において，お接待で配付する記念品（箸置き，しおり等）の制作活動ができた。</td></tr>
</table>

重点課題２　多様性を育むキャリア教育の展開

	自己評価				次年度への課題と今後の方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価		
教務課	教員の専門性，指導力の向上，状況に応じた指導の改善をめざして「個別の指導計画」の作成が円滑に進むような運営をする。	評価指標 ①保護者懇談や指導開始時期までに回覧を終え,「個別の指導計画」の作成が完成できるよう，タイムスケジュールを調整する。 ②ケース会で，個別の指導計画の手引きを活用し，目標や手だてについて検討する。 ③見直しケース会で，生徒の状況に応じた指導方法の改善を検討する。	評価指標による達成度 ①タイムスケジュールを作成し，保護者懇談や指導開始時期までに「個別の指導計画」が完成できた。 ②前期目標と後期目標のケース会において，個別の指導計画の手引きを見ながら，目標や手だてを検討できた。 ③見直しケース会において，生徒一人一人の指導方法の改善を話し合い，共通理解をはかることができた。	総合評価 ＜評定＞ Ⓐ　B　C ＜所見＞ 年間計画では，卒業生の年間目標提出日が後期目標提出日より後の別日になっていたが，回覧期間を考えると同日がいいと考え，修正した。来年度の年間計画では，同日に設定することとした。	次年度への課題としては，来年度のカレンダーに沿って，回覧期間を考えて，「個別の指導計画」の提出日を設定する。それと，ケース会での検討がスムーズに進むように工夫する。 方策としては，年間行事や曜日配列をふまえ，タイムスケジュールを調整，設定し全体周知を行う。それと，ケース会での検討をスムーズに進めるために「個別の指導計画」作成前に手引きのセルフチェックリストを確認して作成するよう全体周知を行う。
		活動計画 ①年間の行事予定や管理職回覧の期間，校長先生の来校日等を考えて，提出日を決定し，全体周知する。 ②ケース会時に，個別の指導計画の手引きを持参し，照らし合わせながら目標や手だてについて検討する。 ③見直しケース会を前期に１回，後期に１回行い，指導方法の改善について全体周知する。	活動計画の実施状況 ①前期目標，後期目標それぞれの提出日を決定し，全体周知することができた。 ②ケース会時に，手引きを持参するよう声かけを行った。全員が持参し検討することができた。 ③見直しケース会で指導方法の改善を行い，学部内で全体周知することができた。		学校関係者評価 個別の指導計画の取組が計画的にされていて，いつも感心している。取組がよくわかった。

重点課題　２　多様性を育むキャリア教育の展開

	自己評価				次年度への課題と今後の方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価		
進路課	児童生徒一人ひとりの自己肯定感の向上，支援を受けながらの自立を目指したキャリア教育（教育活動）の実践を行う。	評価指標 ①高等部では，就業体験の事前学習の一環として，年間各学級１回以上，進路課より進路に関する授業を特設する。 ②中学部のはたらく体験学習が，高等部や卒業後の進路につながる活動であることを，事前学習において話す機会を年１回以上作る。 ③職員の人権意識の向上を図るために，希望研修として人権研修を年１回行う。	評価指標による達成度 ①それぞれの学級において，学級の実態に応じた進路に関する授業を行うことができた。 ②はたらく体験事前学習において，進路の先生から話をする機会を１回設けることが出来た。 ③夏期休業中に，人権教育教員研修を行うことが出来た。	総合評価 ＜評定＞ A　(B)　C ＜所見＞ 今年度はコロナウィルス感染症の影響があったが，就業体験や中学部におけるはたらく体験学習を実施することができた。従来通りとはいかなかったが，体験的な活動を通して進路指導を昨年度よりも充実させることができた。 人権教育校内研修では，多くの教員が参加し，美波町の人権教育の歴史を知る良い機会となった。	次年度は，高等部の就業体験と中学部のはたらく体験学習を別々の日程で実施予定である。そのために，高等部の就業体験の様子を，中学部の生徒に伝える機会を設定し，より一貫した進路指導を行えるようにしたい。 また，高等部の就業体験も，各学級や高等部全体の事前学習も生徒の実態に応じた工夫を行い，生徒自身の進路を生徒自身が考えられるような工夫を行いたい。 人権教育については，教員研修や情報提供の機会の充実を図り，人権に配慮した授業作りや学級作りが行えるようにしていきたい。
		活動計画 ①各学級の実態や進路別セルフチェックリストから出た課題を学習内容に入れ，授業を行う。 ②はたらく体験学習の事前学習で，将来の進路希望について生徒アンケートを取り，それぞれの進路希望に必要なスキルや態度について伝えるようにする。 ③夏休みに美波町の人権教育フィールドワークを希望研修で実施する。	活動計画の実施状況 ①各学級の実態やニーズを担任から聞き取りを行い，授業を行うことが出来た。 ②将来の進路希望等，アンケートや聞き取りをすることはできなかったが，生徒の実態等，中学部長より生徒の実態等聞き取りを行い，話をする時間を作ることができた。 ③７月２７日（水），美波町人権擁護委員の南早苗さんを講師に，職員人権教育研修を行った。「人権フィールドワーク」で，美波町井ノ上地区の史跡を巡りながら，美波町の人権教育の歴史を教えていただいた。		学校関係者評価 高等部卒業後の進路について，熱心に取り組まれていて，成果も上げているようで感心している。 人権教育も地域での活動ができていて，よかった。

重点課題 1　安心・安全な学校づくり

	自己評価				次年度への課題と今後の方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価		
生活課	感染症対策について，児童生徒会役員が中心になって啓発活動を行い，健康に気をつけて学校生活を送ることができる。	評価指標 ①児童生徒会役員による感染症対策についての啓発や養護教諭からの保健指導等を行い，手洗いうがいの励行，学校施設の消毒について，教員・生徒に呼びかけ実践するよう促し，健康についての意識を高める。	評価指標による達成度 ①感染症対策について，養護教諭から保健指導を行ったり，児童生徒会役員からの呼びかけにより，手洗いうがいの励行，学校施設の消毒を行い健康について意識を高めることができた。	総合評価 ＜評定＞ Ⓐ　B　C ＜所見＞ 新型コロナウィルス感染症の影響が続く中，生徒の手洗い・うがいの励行，マスクの着用において，養護教諭からの保健指導や児童生徒会の呼びかけもあり，継続した取り組みを行うことができた。	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中，現在行っているいる手洗い・うがいの励行や，マスクの着用，教員による学校施設の消毒等は引き続き行っていき，養護教諭からの保健指導や児童生徒会の呼びかけもより一層重要になってくると考えている。そのためにも児童生徒会が中心になって，健康に気をつけて学校生活を送ることができるよう，正しい見本を示したり，健康に関する標語を考えて掲示したりして，さらに啓発活動に取り組む必要がある。
		活動計画 ①-１毎月の全校集会で感染症対策について，児童生徒会役員が啓発活動ができるよう，養護教諭と計画を作成する。 ①-２各手洗い場に，手洗いの方法を掲示したり，ハンドソープや手指消毒液を設置する。 ①-３授業日には，教員が学校施設の消毒を行う。	活動計画の実施状況 ①-１毎月実施している全校集会において，感染症対策に関する啓発活動を，児童生徒会役員が行うことができるように養護教諭と計画を作成できた。月の目標に感染症対策に関することを設定するなどして，健康についての意識を高めることができた。 ①-２各手洗い場に，手洗いの方法を掲示したり，自動で出るハンドソープや手指消毒液を設置した。 ①-３授業日には，教員が学校施設の消毒を行った。		学校関係者評価 コロナウィルス感染症対策で，分校の取組が聞けて参考になった。引き続き感染症予防や対応について取り組んでいただきたい。

重点課題 ３　地域とともにある学校づくり

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="4">自己評価</th><th rowspan="2">次年度への課題と
今後の方策</th></tr>
<tr><th>重点目標</th><th>評価指標と活動計画</th><th colspan="2">評　　価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">生活課</td><td rowspan="2">「ひわさ分校作品展」を通して，地域へ向けて学校の教育活動や児童生徒についての理解啓発を行う。</td><td>評価指標

①昨年度開催した場所での「ひわさ分校作品展」を美波町や牟岐町，海陽町で継続して行うことができる。
②新たに開催できる場所を増やす。</td><td>評価指標による達成度

①「美波町役場」「美波町医療センター」（美波町）や，「県立海部病院」（牟岐町），「海南文化館」「海陽町立海南病院」（海陽町）で継続して行うことができた。
②新たに「県立海部病院」にて開催することができた。</td><td rowspan="2">総合評価

＜評定＞
Ⓐ　B　C

＜所見＞

昨年度から引き続いて同じ場所での作品展示や，新しい場所でも開催することができた。施設側の担当者の方も大変理解を示してくれた。
実際に見学された地域の方から「生徒はどんな勉強をしているの？」といった質問を受けたり,「色遣いが素晴らしいですね」といった感想を伝えられたりと，作品展を通して本校の理解啓発を行うことができた。</td><td rowspan="2">作品展の開催にあたっては，生徒の作品数に限りがあるため，早い段階で美術担当教員と計画を行い，実施に向けて取り組む必要がある。また，開催期間の日程調整も必要である。
今回新たに実施した県立海部病院では，２週間の実施期間ではあったが，病院を受診している患者の方から，作品を見ていただき，大変好評だという意見をいただいた。新たに作成した作品に限らず過去の作品等を使い,長期にわたって作品展示(作品展示という形ではなく，病院に常設で飾ってもらう等）を行う計画をたてることも可能ではないかと考えている。

学校関係者評価

地域での活動の幅が広がっており，地域の関心も高いようである。引き続き取組をお願いしたい。</td></tr>
<tr><td>活動計画

①-１ひわさ分校作品展について計画を作成する。（10月）

①-２昨年度作品展を実施した場所や，新しく開催を計画した場所の担当者と連絡を取り，作品展開催に向けて打ち合わせをする。
（11月～）

①-３保護者宛の文書を作成し，保護者への周知を図る。また，地域の広報誌への掲載依頼を行うなど地域住民への周知を図る。

②地域の図書館などに対して，開催に向けての説明と交渉を行う。</td><td>活動計画の実施状況

①-１作品展について計画を作成し，12月に校内で周知することができた。

①-２開催に向けての打合せや開催場所で担当者の方と話しをするなど，作品展に向けて十分な打合せを行うことができた。

①-３保護者宛の文書を作成し，１月に保護者への周知を図ることができた。開催期間の変更が生じた際も，保護者宛文書を作成し，伝えることができた。

②観覧者のターゲットを小中学生などの年齢よりも高い年齢層に設定し，そのためには地域の病院等の施設が適当であると考えた。開催に向けての交渉を行うことで，新たに県立海部病院にて開催することができた。</td></tr>
</table>

重点課題２　多様性を育むキャリア教育の展開

	自己評価				次年度への課題と今後の方策
	重点目標	評価指標と活動計画	評　　価		
支援課	個別の事例に対してより的確な指導や実践を行うために，専門家による指導を受ける機会を設けるとともに，校内での共通理解を図る。	評価指標 ①社会人講師による指導や学校コンサルテーション事業等を充実させ，生徒の実態や課題，指導内容を校内で共有することができる。	評価指標による達成度 ① 下記(活動計画の実施状況)のとおり，社会人講師による指導(年間11回)及び学校コンサルテーション事業(年間５回)を実施し，実践状況や指導を受けた内容を校内で共有することができた。	総合評価 ＜評定＞ A　(B)　C	社会人講師による指導では，次年度も同じ講師から同じ回数の指導を受けられるよう計画をしている。今年度と同様に指導を直接受ける教員だけでなく，他の教員へも情報を発信していくことで，校内全体の専門性の向上に繋げたいと考える。 学校コンサルテーション(事例研究)では，「どの教員がコンサルテーションを受けるか」ではなく，「実際に困っている事例」を挙げて専門家に指導を受けた。そのため，指導実践が難しく，その大きな原因の１つとして指導目標(標的行動)を定めるところが難しかったことがある。そのため，専門家との相談や校内での事例検討会を充実させていくことが必要であると思われる。 特別支援教育パワーアップ事業では，校内職員のニーズ(愛着障がい)をテーマに研修を設定したが，研修会後も校内生徒の事例に関しての相談とその指導助言をメールで行うことができた。今後も，本校の教育実践に活かすことができる研修内容を考えるだけでなく，本校の生徒・教員を支援者となる専門家との繋がりを構築していける公開研修会にしたい。
		活動計画 ①-1社会人講師(PT･OT･ST)の指導を受ける機会を設定し，指導後は学部会で指導内容を毎回報告する。 PTによる指導：年間４回 OTによる指導：年間４回 STによる指導：年間３回 ①-2学校コンサルテーション事業において各学部１事例以上について取り組み，校内事例検討会を４回以上行う。 ①-3学校コンサルテーション事業(年間２回)において，専門家からの指導内容等を職員会議で報告をする。 ①-4特別支援教育パワーアップ事業公開研修会(8/16)において，校内の事例検討ができる場を設定し，専門家よりアドバイスをいただく(全体研修)。	活動計画の実施状況 ①-1 社会人講師の指導は次の通り PT: 6/3　9/9　12/9　1/20 OT: 6/10　9/2　11/18　1/13 ST: 7/8　10/28　1/27 指導後に学部会で指導を受けた内容を報告し，情報共有した。 ①-2中学部３事例，高等部１事例に取り組んだ。第１回コンサルテーションまでに各事例２回ずつ事例検討会を行った。 ①-3学校コンサルテーションをリモートで５回実施した。指導を受けた内容を職員会議・各学部会で報告をした。 ①-4 公開研修会をリモートで実施し，和歌山大学の米澤先生より「愛着障がい」をテーマにした研修(午前の部)と，本校生徒の事例に関する相談(午後の部)を実施した。	＜所見＞ 社会人講師による指導では，PT・OTの先生が昨年度から替わった。指導を受ける側もまた新しい観点から指導を受けることができ，それぞれの事例で的確なアドバイスを受けることができた。学部での情報共有においても「相談シート」を活用することで効率的で有意義な情報共有ができた。 学校コンサルテーションでは，生徒の実態により，研究としては難しい事例もあったが，生徒の実態の捉え方や支援方法を学部内で共有できた。 公開研修会では，「愛着障がい」に関しての理論的な話だけでなく，実際の事例に関しても相談することができ，的確なアドバイスをいただくことができた。	学校関係者評価 巡回相談員活動や社会人講師，公開研修会等，地域の子どもたちへの支援等が大変充実している。引き続きお願いしたい。

重点課題３　地域とともにある学校づくり

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="4">自己評価</th><th rowspan="2">次年度への課題と
今後の方策</th></tr>
<tr><th>重点目標</th><th>評価指標と活動計画</th><th colspan="2">評　　価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">支援課</td><td rowspan="2">特別支援教育巡回相談員活動等を通して，本校の教育活動についてアピールする場を増やす。</td><td>評価指標

①特別支援教育巡回相談員活動において，就学・進学に関わる相談が昨年度(２件)より増える。

②地域連携協議会等で本校の概要説明を５回以上行う。

③公開研修会等で地域の教員や保護者，関係機関の方が20名以上参加し，本校の教育活動について知ってもらえる場を設ける。</td><td>評価指標による達成度

①特別支援教育巡回相談員活動での，就学・進学に関わる相談は１件であった。

②地域連携協議会等で本校の概要説明を１回行った。

③リモートでの公開研修会では87名の参加があった。地域相談会は気象警報発令のため中止となった(来校者なし)。</td><td>総合評価

＜評定＞
A　(B)　C

＜所見＞
感染症予防対策のため，地域の会議が減少したり，来校しての研修会や相談会の実施が中止となった。来校機会が少なくなったが，研修申し込み等をホームページ上で実施することで，ホームページの閲覧が増えたことが大きな成果となった。</td><td rowspan="2">海部郡内の小学校，中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒は地元の中学校・高等学校に進学先を選ぶ生徒がほとんどである。これは，本校のアピールを間接的に進めていくだけでなく，直接的に広報していく必要がある。学校の概要説明(アピール)についても，地域の特別支援担当者は継続して担当している方も多く，同じ内容を毎年聞くようになっているのが現状である。アピールのターゲットとなるのは保護者であり，そのためにも地域の特別支援に関わる教員(コーディネーターや管理職)との連携は不可欠であり，次年度以降も重点的に行っていく。</td></tr>
<tr><td>活動計画

①　広報活動等において，地域の特別支援教育コーディネーターと連携し，就学・進路先で悩んでいる保護者とつないでもらう。

②　海部郡(美波町･牟岐町･海陽町)地域連携協議会等で学校の概要説明に関する話を行い，広報活動をする。

③-1(感染症の状況により)来校しての研修会を実施し，本校のことを知ってもらう機会にする。

③-2 研修会の案内を積極的に行うとともに，本校のホームページ上に研修申し込み専用フォームを設け，ホームページを閲覧する機会を増やす。</td><td>活動計画の実施状況

① 年度始めに広報活動を行い，地域のコーディネーターや特別支援教育担当者等との顔つなぎを行った。

② 美波町の連携協議会では学校の概要説明を実施した。牟岐町では牟岐町在住の本校生徒の現状を報告した。海陽町へは紙面にて広報を行った。

③-1夏季休業中の感染症の状況より，来校しての研修会は実施することができなかった。

③-2特別支援教育パワーアップ事業の研修会の申し込み，及びアンケートをWeb上で実施することで外部者がホームページを閲覧する機会も設けた。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>学校関係者評価

地域のセンター的な役割を巡回相談員が担っていることがよくわかった。学校種や地域による差があるようであるが，引き続き地域のために貢献していっていただきたい。</td></tr>
</table>

重点課題　安心・安全な学校づくり

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th colspan="4">自己評価</th><th rowspan="2">次年度への課題と
今後の方策</th></tr>
<tr><th>重点目標</th><th>評価指標と活動計画</th><th colspan="2">評　　価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">環境課</td><td rowspan="2">①地域や行政と連携した避難訓練を実施し,防災対策の充実を図る。

②情報モラルに関する指導の充実改善を図るために，研修を計画的に実施する。</td><td>評価指標
①-1大規模災害に備えて地域と合同の避難訓練を１回以上実施する。

①-2地震･火災･土砂災害の防災訓練を年４回以上実施し,学校防災計画の見直しをする。

②職員研修等において情報モラルに関する研修や啓発を行う。年度末の調査において８割以上の教員が理解し実践できたと答える。</td><td>評価指標による達成度
①-1合同の避難訓練を９月に実施した。

①-2指標通りに４回の避難訓練を実施し，学校防災計画の見直しをした。

②指標通りに研修や啓発を実施した。</td><td>総合評価
＜評定＞
(A)　B　C

＜所見＞
必要に応じた防災管理マニュアルの改善や地域と連携した避難訓練が実施できた。今後も，継続して実施していく必要がある。
研修や啓発活動ができた。８割以上の教員が，オンライン学習等タブレットを使用をした実践ができたと答えた。今後も，情報モラルやセキュリティ等に関する啓発･研修を継続していく必要がある。</td><td>あらゆる防災体験や避難訓練を実施することで，防災意識を高めて，いざというときに生徒の命を守れるようにしなければならない。今後も，地域と生徒の実態に配慮した避難訓練を継続していきたい。また，行政と連携して備蓄保管品の精選や地域住民の避難所的役割を果たせるようにしたい。
GIGA スクール構想の実現に向けて，情報セキュリティポリシーや情報機器等の研修,GIGA スクールサポーター等を活用しながら，生徒一人一人に最適化された学びを推進する必要がある。今後の感染症対策も含めて，一人 1 台端末を積極的に活用した取り組みとして，オンライン学習など多様な生徒の実態に即した一貫した学びの機会と学習活動を充実させていきたい。</td></tr>
<tr><td>活動計画
①-1地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を計画･実施する。（９月）

①-2学校防災管理マニュアルに沿って南海トラフ地震臨時情報への対応等を追加する。（通年）

②職員会議や職員研修等において啓発や研修を年間３回以上実施する。</td><td>活動計画の実施状況
①-1地域の行政機関，障害者施設と合同の避難訓練を実施した。

①-2「南海トラフ地震臨時情報」発表時の対応方針を追記した。

②計画通りに情報モラルや情報セキュリティポリシー，タブレットの使用方法，オンライン学習等に関する研修を３回以上実施した。</td><td>学校関係者評価
インターネットによる発信が大変充実していたことがよくわかった。ひわさ分校の取組を紹介できるよい機会であった。防災対策も大きな課題であるが，今後も，引き続き地域等と連携していってほしい。</td></tr>
</table>